

■安心してお産を迎えていただくために■ ～母体救命ベーシックコースを開催しました～

病院長 河上 祥一

日本では、お産によって命を落とす妊産婦さんの数はとても少なく、世界的に見ても安心して出産できる国といわれています。しかし、万が一に備えて、医療スタッフがしっかりと対応できる体制を整えておくことがとても大切です。

そのため当院では、医師・助産師・看護師などが緊急時に迅速で適切な処置ができるように、「母体救命ベーシックコース」という研修を定期的で開催しています。この研修は、日本母体救命システム普及協議会が行っている全国的なプログラムで、無痛分娩に関わる医師にも受講が推奨されています。

今年は6月29日(日)に当院で開催し、医師4名、助産師5名、看護師3名が参加しました。参加者は福田病院の職員の



ほか、大学病院や連携施設(松橋レディースクリニック、八代レディースクリニック)のスタッフも含まれています。

研修では、

- ・胸骨圧迫(心臓マッサージ)
- ・AEDの使い方
- ・簡単な心臓の超音波検査
- ・呼吸を助けるための器具の使い方
- ・意識や神経の確認方法 などを学びました。

また、実際に起こりうる7つの場面をシナリオとしてチームでシミュレーション(模擬対応)し、緊急時の動きを体験しました。

最初は緊張していた参加者も、研修を通じて「自分ができること」「チームで協力すること」の大切さを改めて実感していました。

このような研修を重ねることで、スタッフ一人ひとりの対応力が高まり、万が一のときにも迅速かつ安全な対応ができるようになります。

私たちは、これからも妊婦さんと赤ちゃんが安心してお産にのぞめるよう、日々準備を整えてまいります。

NCPR (Sコース) 講習会を実施しました

新生児蘇生法: NCPRは、日本周産期・新生児医学会において2007年より普及事業が開始され、当院では2012年よりNCPR(Aコース)講習会を実施しています。

2022年度よりS(スキルアップ)コースの開催を開始し、6月16日に第7回目を実施しました。このコースはAコースの資格更新をするための講習会となっています。講習会の内容は『日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト』を基に、講義・基本手技実習・シナリオ実習を実施し、技術の振り返りを行っています。

私たち医療スタッフはこれからも専門性の高い講習を行い、安全に新しい命の誕生を迎えられるよう努めてまいります。



社会医療法人 愛育会
福田病院

当院のこと、ママに役立つこと。
情報はこちらから。

外来にも掲示しています。



※画像はイメージです



<https://bit.ly/3dgdaDt>
最新のブラウザを推奨します。
ios(safari)
Android(Chrome)

パスワード
4498

当パスワードは、2025年6月～
2025年9月末迄有効です。

※パスワードは定期的
に変更になります。
ご注意ください。

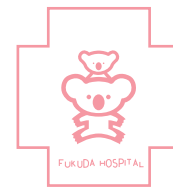
個人情報の利用について

当院がコアラジャーナル郵送のためにお預りしている氏名、住所等の個人情報は、コアラジャーナルの郵送の他、当院で開催する行事のご案内や重要なお知らせ等を送付する目的で利用させていただきます。それ以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、あらかじめご本人の同意をいただきますので、ご了承ください。

住所が変更になられた方は、福田病院までご連絡下さい。

コアラジャーナル編集部

KOALA JOURNAL



コアラ ジャーナル
KOALA JOURNAL

発行所 熊本市中央区新町2丁目2-6
〒860-0004 電話 (096) 322-2995
<https://www.fukuda-hp.or.jp>
info@fukuda-hp.or.jp
愛育会 福田病院
第481号 毎月1回 1日発行

おっぱいの話

看護部 産婦人科外来 師長 工納 浩江

厳しい暑さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。妊婦さんは熱中症のリスクが高いといわれています。水分補給や室温調節、外出時には帽子や日傘を活用して、熱中症を予防しましょう。

さて、妊娠中は体調管理と共に出産・育児に向けた準備も必要です。母乳育児の準備もその中の一つです。「妊娠6か月を過ぎ胎動をしっかり感じるようになったら、乳頭の手入れを始めましょう」とお話をしています。ただし、切迫早産の兆候がある方は控えます(詳しくは妊婦健診時に助産師がご説明いたします)。産後は早期から授乳を開始して乳汁分泌を促します。

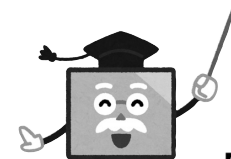
母乳には母子共にメリットがたくさんありますので母乳育児をお勧めしていますが、妊婦さんの背景も多様化しており状況に応じてお話をしています。

こうした「おっぱい」について「母乳育児支援」として関わる一方で、今年7月1日にプレストセンターが開設され、新たに「乳腺診療」として女性を支援する取り組みが、始まりました。

検診から診断、治療、手術まで他施設と連携し一貫した体制が整いました。外来フロアの1階と5階に分けて診療が行われ、1階乳腺外科外来が「乳腺検診外来」の名称になり、これまでと変わらず乳がん検診や産後の乳腺炎の治療などを行います。5階が新しく「乳腺外来」として加わり、乳がん検診で乳がん疑いのある方をご案内して精密検査を行います。更に詳しい検査が必要な場合は、他施設と連携を図り検査を実施します。そして、乳がんと診断された場合は、乳がんのタイプによって治療法が異なるため、しっかりと説明を行い、患者様の意向を尊重して治療方針が決まります。5階の乳腺外来では、ホルモン剤投与による内分泌療法や抗がん剤投与による化学療法などを行います。

現在、日本人女性の9人に1人が乳がんになるといわれています。40～50歳が最も多くライフサイクルの上での役割が大きい年代です。AYA世代(思春期・若年成人:15～39歳)は乳がん患者全体からみると約5%ですが、学業・仕事・結婚・出産、子育てなど人生において様々なライフイベントについて考えたり経験したりする時期と重なる年代です。多職種・他施設と連携を図り患者様とご家族と一緒にサポートし、安心して生活していただくことを目指します。

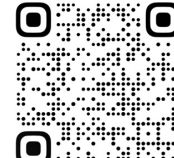
乳がんは早期発見が大切です。妊娠中や出産後も乳がんが発見されることがあります。どの年代の方も月1回はセルフチェックを行いましょう。また、気になる症状がある時は気軽に相談ください。



ホームページ



LINE



Instagram



facebook

母親学級(各教室等)やマタニティスポーツの開催については下記へお問合せください。

●母親学級(各教室等)のお問合せ●

＜ゆうかり倶楽部＞ 【受付時間】9:00～17:00(日祝除く)

【ゆうかり倶楽部直通番号】TEL: 096-322-5116



©2010熊本県くまモン

KOALA JOURNAL